

## 2021年度 学校関係者評価報告書

2022年6月30日

学校法人 国際ことば学院

国際ことば学院外国語専門学校

学校関係者評価委員会

学校法人 国際ことば学院・国際ことば学院外国語専門学校の学校関係者評価委員会は、2021年度自己点検・自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を行いました。

### 学校関係者評価委員（順不同・敬称略）

栗田 裕之	静岡市議会議員
浜本 百合子	医療法人社団 浜本整形外科医院 理事・事務長
清水 英治	株式会社 BRICS 代表取締役
伊藤 精俊	有限会社 アミュージングデザインイトウ 代表取締役
アドヒカリ ラビンドラ	レストラン「ナマステ・フジ」経営者
中村 直保	森下学区連合自治会長
伊藤 照之	前常葉大学 非常勤講師
海野 香純	在校生父兄

### 2022年度 第一回 学校関係者評価委員会

日 時：2022年6月22日（水）

場 所：国際ことば学院外国語専門学校

出席委員：栗田裕之、浜本百合子、伊藤精俊、伊藤照之、海野香純

### 議題等

1. 2022年度開始時における本校の状況について
2. 2022年1学期の主な出来事
3. 2021年度 自己評価報告書について
4. 2022年度 重点目標について
5. コース変更について
6. 就職活動の状況、来年度の募集について
7. 質疑応答

### 2021年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

項目	課題に対する学校の取り組み状況	評価
1. 教育理念・目的・育成人材像	□教育理念と理念に基づく育成人材像の再定義を学校関係者評価委員会の意見等を取り入れながら行い、昨年度より学校案内への明記など文書化を行っている。その際、多言語、ビジネススキルと国際コミュニケーション力の習得を特性として定義した。	

	<p>□理念、育成人材像の実現のためにカリキュラム編成委員会を中心に具体的な目標・計画・方法の策定を行っている。</p> <p>□教員採用にあたっては関連業界からの紹介等を受けてはいないが関連業界経験者の採用を行っている。</p> <p>□関連業界関係者に具体的なアドバイスや意見を常に聞きながら、人材ニーズの最適化に努めている。</p> <p>□中期的な視点で学校の将来構想を定めているが、周知までには至っていない。</p>	<p>□人口減を外国人材で補っているということを鑑みると、留学生を多く受け入れ、日本社会に送り出している責任は重大である。</p> <p>留学から就職、そして定住へと結びつくよう、留学生に対する教育と同時に日本人に対する教育にも力を入れていてほしい。</p> <p>また、交流の場ももっと設けていってほしい。</p>
2. 学校運営	<p><b>運営方針</b></p> <p>□教育理念、育成人材像について社会のニーズにあわせて改定した。今後は、その周知と共に浸透度の確認手法を確立しなければならない。</p> <p><b>事業計画</b></p> <p>□単年度の事業計画と予算執行状況を3ヶ月ごとに事務局に報告し、6ヶ月ごとに理事会で審議する体制を作っている。</p> <p><b>運営組織</b></p> <p>学校運営組織として大きな問題は生じていないが、現状に満足することなく学生満足度の向上を目指せる運営形態であるか常に確認し最適化を図っていく。</p>	<p>□学校全体の意思疎通をしっかりとはかることにより結束力を高めてほしい。</p>
	<p><b>人事・給与制度</b></p> <p>□採用基準・採用手続きについては適切に行われている。2020年度より、人事考課制度の本格的な運用が始まった。</p> <p><b>意思決定システム</b></p> <p>□意思決定システムは機能しているといえるが、規則・規定については未整備のものもある。</p>	<p>□人事考課制度の導入が単なる職員の評価で終わらないように、学校の質、教育の質の向上につながるように制度を整備していってほしい。</p>

3. 教育活動	<p><b>目標の設定</b></p> <p>□職業教育に関する方針を H29 年度中に文書化した。</p> <p>学生の資質向上に伴いクラスや担当の枠を超えて、資格取得に向けての支援指導をさらに強化する。</p> <p><b>教育方法・評価等</b></p> <p>□コロナ禍によりオンライン授業が増えたことで、目標よりも感染防止を優先することが多かった。</p> <p>□評価アンケートの結果を授業改善に役立てられるよう教員からのフィードバックを行い、さらに教科内で情報共有のためのミーティングを実施している。</p> <p><b>成績評価・単位認定等</b></p> <p>□成績評価について、客観性・統一性を高めるため、授業シラバスの統合に合わせて、教科ごとの評価項目を明記した。</p> <p><b>教員・教員組織</b></p> <p>□教員募集・採用手続きを等の規定を法人本部と連携し整備している。</p> <p>□学外研修参加を奨励しているが、参加状況は十分とは言えない。</p>	<p>□コロナウィルス感染症へのこれまでの対策を評価する。いつか事態は収束するだろうと楽観視せず、試行錯誤を繰り返しながらもよりよい教育を目指していってほしい。</p> <p>□教育内容が学生のニーズ、社会のニーズに適合しているかどうか、常に見直してほしい。</p>
4. 学修成果	<p><b>就職率</b></p> <p>□学生一覧を作成して就職活動の状況を把握し、内定までをフォローしている。</p> <p>三者面談（日本人）や個別面談（留学生）を通じて、就職希望者への確認を行っている。</p> <p><b>資格・免許の取得率</b></p> <p>□資格、検定合格率向上のための対策授業等を行っている。</p> <p><b>卒業生の社会的評価</b></p> <p>□卒業生および採用企業への連絡を通して情報収集を行っている。</p>	<p>□社会人としての心構えや礼儀、ビジネスマナーなどの指導も望む。</p> <p>また、外国人材の受け入れには日本人側の教育も不可欠なので、そういう役割も担っていってほしい。</p> <p>□三者面談は将来について明確に考えるきっかけとなった。細かく指導していただき、助かっている。</p>

5. 学生支援	<p><b>就職等進路</b></p> <p>□就職担当と教務部の連携を強化し、教職員全員が協力して、進路に関する支援を行う体制を強化している。</p> <p><b>中途退学への対応</b></p> <p>□担任会議などで学生の状況については常に情報共有することにより中途退学低減の努力をしている。</p> <p><b>学生相談</b></p> <p>□留学生の生活状況を含め在籍管理などの生活指導は全校をあげて取組んでいる。</p> <p><b>学生生活</b></p> <p>□奨学金等の経済的支援制度は、整備されているが潤沢に予算が作れないのが現状である。国による高等教育の修学支援新制度や貸与奨学金の対応をしている。</p> <p><b>保護者との連携</b></p> <p>□現状大きな問題は発生していない。</p> <p><b>卒業生・社会人</b></p> <p>□留学生を中心に任意の強固なネットワークを保持しており学校公式 SNS を媒介として積極的に利用してもらっている。</p>	<p>□企業とのミスマッチがないよう、注意が必要である。</p> <p>□経済的支援だけではなく、精神的サポートやケアが重要になってきている。学生の発信する SOS を素早くキャッチし、きめ細かい対応をお願いしたい。</p> <p>□様々な学生が在籍しており、それに寄り添った対応を今後も継続していってほしい。</p>
6. 教育環境	<p><b>施設・設備等</b></p> <p>□教育上の施設については設置基準を満たしているが、ネットワーク環境など更なる整備が必要な箇所がある。また、バリアフリー対策については長期計画の中で整備する。</p> <p>□図書室は整備され、多言語の多読用の本も充実させた。更なる図書の充実を図っていく。</p> <p>□一通りのインターネット環境と講師用・学生用のパソコンの整備はされているが、オンライン授業に十分対応できるよう定期的なメンテナンスは必要である。</p>	<p>□一般的な学校と違って様々な学生が在籍しているため、ニーズをしっかりと把握して対応していってほしい。また、就職活動につながる本があれば、役立つと思われる。</p> <p>□オンライン授業は今後も続くことが予想されるため、インターネット環境の整備に取り組んでほしい。</p>

	<p><b>学外実習・インターンシップ等</b></p> <p>□コロナ禍であったため、学外実習、インターンシップ、海外研修は行われなかった。</p> <p><b>防災・安全管理</b></p> <p>□防災体制については定期的、計画的に行われているが、オンライン授業の際の対応を整備する必要がある。</p>	<p>□留学生が多いため、避難場所の確認をしっかりとしてほしい。自宅からの避難場所もわかるようにしておくとよいのではないか。</p>
7. 学生の募集と受け入れ	<p><b>学生募集活動</b></p> <p>□募集時期、募集活動は専修学校団体の自主規約に即して適切に行われている。</p> <p>学校案内を含め学生募集ツールは、よりわかりやすく特徴を伝えるために募集対象者に応じて複数作成される必要性を感じている。</p> <p>□新規入国停止が続き、国内日本語学校留学生の在籍数が激減している中での募集となっている。</p> <p><b>入学選考</b></p> <p>□入学選考基準は明確化されており、公平性が保たれるよう教務部、事務部が連携し合否判定体制を整備し、入学選考基準、方法の文書化を行った。</p> <p><b>学納金</b></p> <p>□同種類・同規模校の水準を把握しできるだけ学生に負担をかけない学納金の設定を行っている。</p>	<p>□現在の日本社会の方向性に合致した多文化が特徴の学校として、地域に対して模範的存在となるよう期待している。</p>
8. 財務	<p><b>財務基盤</b></p> <p>□2017年度に教室稼働と定員のバランスが最適化された。これに伴い収入と支出のバランスも最適な状態となっている。課題とされていたキャッシュフローデータの毎月の管理も実行されている。</p> <p><b>予算・収支計画</b></p> <p>□予算策定及び執行管理は適切に行われているが、予算規定の整備が遅れている。</p> <p><b>監査</b></p> <p>□学校規模から鑑みて監査は適切に実施されている。</p> <p><b>財務情報の公開</b></p> <p>□財務情報についてはホームページに公開している。</p>	<p>□教育やサービスが学生に十分還元されるよう、バランスの良い分配、健全な収支をお願いしたい。</p>

	<p>る。財務公開規定は整備されていない。中期計画の中で整備する。</p>	
9. 法令等の遵守	<p><b>関係法令、設備基準等の遵守</b></p> <p>□ハラスメントやコンプライアンスについての方針を明らかにし、相談窓口を法人本部に設置し、教職員や学生への周知を行った。しかし、対応マニュアルは未整備のため、整備を行っている。</p> <p><b>個人情報保護</b></p> <p>□学生の個人情報については、パスワードの設定、SSLの設定、学内サーバへのファイヤーウォールの設定などの対策を講じている。</p> <p><b>学校評価</b></p> <p>□自己評価、学校関係者評価は適切に組織化され学校運営改善に寄与している。</p> <p><b>教育情報の公開</b></p> <p>□年度を通して必要な情報は学校案内やホームページで公開し、適宜情報公開が必要なものについては公開しているので大きな問題はない。</p>	<p>□学生が自分の情報だけでなく相手の情報にも責任を持たなければならぬという意識を持つようご指導いただきたい。</p>
10. 社会貢献・地域貢献	<p><b>社会貢献・地域貢献</b></p> <p>□韓国語学習希望者が多い学校特性から、韓国の教育機関との研修を中心とした相互交流活動を積極的に行っている。より社会に開かれた学校を目指すためにも、学校からの広範な情報発信が必要である。</p> <p><b>ボランティア活動</b></p> <p>□学生に積極的にボランティア活動に参加するよう奨励している。</p>	<p>□町内会など近隣の地域との日常的な協力関係を期待している。</p>